

バセドウ病(甲状腺機能亢進症)

患者様情報

来院されるまでの症状

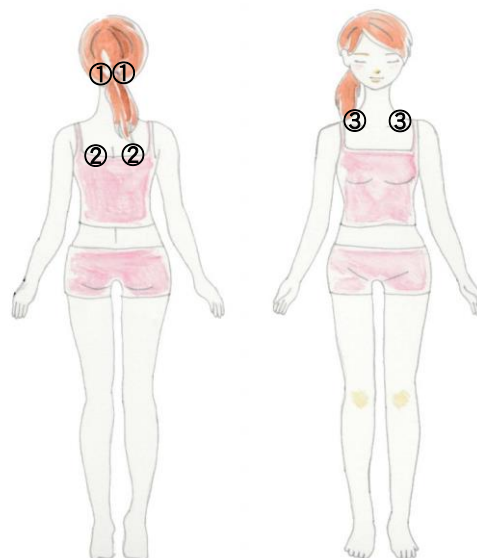
- ・2022年10月頃から動悸が始め、病院でバセドウ病と診断されました。甲状腺ホルモンの薬と降圧剤を服用中で、現在も通院中とのことです。
- ・主な症状としては、強い動悸や息苦しさ、体重減少等があり、夜中にも突然の動悸で目が覚めて1～2時間続くこともある…とのことでした。

患者様	50代 女性
初診	2023年 3月
既往症	むちうち、声帯浮腫、声枯れ
他の症状	高血圧、首肩こり、耳鳴り、左肘の痛み、飛蚊症

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・首の前側がやや腫れぼったく、後側は硬く突っ張っていました。
- ・脈は速く、体全体が汗ばんでいて、臍の上(中脘)を軽く圧すると硬く拍動していました。
- ・下肢に圧痕が残るむくみもありました。
- ・首の後側、頸椎3-4番の両側の突っ張りを鍼で緩め、中心には優しいお灸を据えました。
- ・鎖骨上窩や肩甲骨の内側に気や血の滞りによる凝りができていたので鍼で緩めました。
- ・自律神経が乱れていて交感神経の緊張が強かったので、バランスを整える治療を行いました。



■ 初診後の経過

- ・治療後は首の前側の腫れが引き、下肢のむくみも軽減され、お腹の拍動も弱くなりました。
- ・施術した日の夜は動悸なく、良く眠れるとおっしゃっていました。
- ・週に1回の施術を行い、3回目の来院時には甲状腺ホルモンの数値が下がったと喜ばれていました。

使用した主要なツボ

- ①天柱（テンチュウ） ②膏肓（コウコウ）
③欠盆（ケツボン）

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・バセドウ病を含む甲状腺の病気は20代～40代の女性に多く、その症状は多岐にわたり様々です。強い動悸や気になる症状が出たときは、早めの受診をお勧めします。
- ・病院で処方されるお薬の服用や、甲状腺ホルモンの動向をみるための血液検査と併用して、経絡治療を行うことで全身のバランスを整え、症状の軽減や早期改善につながります。ぜひ一度ご相談ください。